

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮



平成 25 年 (2013)
御鎮座 950 年祭

平成 22 年 (2010)

応神天皇壹千七百年式年祭

平成 22 年 新春号【第 86 号】

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

主な目次

応神天皇式年祭の年のはじめに……………	2 頁
新春初詣……………	3 頁
早春の行事……………	4 頁
杜の話題……………	6 頁
大宮幼稚園創立 60 周年記念事業のご案内…	9 頁
初宮詣芳名・どんぐり通信……………	10 頁
正月社頭風景……………	12 頁



新春社頭風景

平成二十二年庚寅歳の新春に当たり

謹んで皇室を中心とする国家の隆昌と

氏子・崇敬者の皆様のご清福を熟待申し上げます

宮司 録田紀彦

御即位二十年を言祝ぐ感動余韻

昨年は一昨年に引き続き、天皇陛下御即位二十年奉祝の年でありました。平成2年の11月12日「即位礼正殿の儀」に於いて御即位を内外に宣明されてから、丁度20年に当たるこの日、当宮におきましても、午前10時より「天皇陛下御即位二十年奉祝告祭を責任役員・総代・婦人会役員の皆様の参列のもと慎んで奉仕させて頂き、直会に先立ち「聖寿の万歳」が声高らかに三唱されました。

午後には皇居前広場に於いて国民の祭典が6万人もの人々が参集してお祝い申し上げました。第一部の「奉祝まつり」では、音楽隊や青森のねぶたを始め全国の郷土芸能、都内各社の御神輿などが繰り出されておりました。小生も第二部「祝賀式典」に招かれ、奉祝まつりを見乍ら式典に参加させて頂きました。前日の雨も止み、やや冷え込むなかでの開催となり、総理大臣を始め各界代表多数の人々が参列し、各界の代表からの祝辞やEXILEの奉祝歌が披露されました。やがて提灯に火が灯され、暗闇に浮かびあがる幾万もの灯火や日の丸の小旗が打ち振られるなかを、両陛下には凡そ30分間巨り二重橋に出御になり、提灯をお振りになってお祝いをする国民にお応えになられました。そうして、おことばの最後に「皆さんには寒くはなかったでしょうか。本当に楽しいひととき

でした。どうもありがとうございます。」と述べられました。



将に国民と共にお在りになるお姿。皇室伝統の愛民の大御心と両陛下をお慕いする私共国民

の敬愛の心が一つとなり、君民一体の姿を拝し、伝統ある皇室を頂く日本国の誇り高き国柄に生まれて来た幸せと有り難さを一入実感させて頂き、只々感激のひとときでございました。

何回も何回も「聖寿万歳」が繰り返され奉祝の熱気は興奮と感動の坩堝と化しておりました。ふと空を仰ぎ見ますと重い雲が垂れ下がっている中を、皇居上空のみが楕円形にぽつかりと青空となつて明るではありませんか、これぞ神人感応の姿かと、目の当たりの光景に更に感動させて頂いた次第でありました。

その余韻が覚めやらぬ内に、新年が明けて参りました。お陰様で昨年も年中の諸祭儀を始め、諸行事が順調に進展致しましたことは、ご神慮はもとよりのこと、ご敬神篤き氏子・崇敬者の皆様のご理解あるご協力に依る事と感謝致しております。

中でも、10年前の天皇陛下御即位十年を寿ぎ始めさせて頂きました平安の宮中行事「乞巧奠」「菊被織」の再現や裏千家献茶式など継続させて頂き、昨年は御即位二十年を奉祝してより充実した行事に進化させて頂く事が出来ました。

又、春秋の大祭も御即位二十年を奉祝して斎行させて頂き、更に記念事業として念願の清涼殿2階全室のリニューアル工事も無事竣工することが出来ました事も有り難く存じおります。

尚、幼稚園は今年創立60周年を迎えますが、昨年の秋に第60回運動会と暮れに60周年を祝う園遊会（父母の会主催のお楽しみ会に併せ、記念植樹やバルーン上げ等）を親子で楽しみお祝い致しました。記念式典は本年6月12日に予定されております。厳しい経済状況下にあります、60周年記念事業に対するご協賛をお願い致しておりますので、何卒ご理解あるご支援を宜しくお願い申し上げます。

応神天皇七十七周年式年祭の年のはじめに

さて本年はご祭神の応神天皇様が崩御されてより七十七周年の式年祭を迎えられていることから、宮内庁では4月1日に応神天皇陵に於いて七十七周年式年祭が斎行され、本宮の石清水八幡宮では2月15日に同じく斎行されます。又、全国八幡連合総本部より、この年に式年祭の祭典斎行の旨の

呼び掛けがあり、全国傘下の八幡神社の社頭にはその幟が掲出されることになっております。当宮では来る4月1日に応神天皇七十七周年式年祭を斎行させて頂きます。

平安末期に編纂された「桑略記」の縁起に依れば、欽明天皇の32年に笹の葉に乗った三歳の童児が現れ、「我は菅田天皇（応神天皇）」にして、広幡八幡麻呂なり、我が名は護国靈驗威力神通大自在王菩薩」と託宣され宇佐八幡宮に祀られたのが八幡託宣の最初であり、応神天皇崩御後六百余年後のこととされております。

その八幡大神の第十五代応神天皇のご治世は、母君の神功皇后の胎中天皇として三韓を平定され論語や千字文などの大陸の諸文化が移入され、日本の国威が大いに高揚された時と伺っております。やがて欽明天皇32年頃は国際的（大陸や朝鮮半島）にも日本の権威が失墜しつつある頃であり、もう一度応神天皇のご治世の御神威をといひ願っている内に、八幡大神としてご出現になったのだと思っております。その後八幡大神は、奈良東大寺の大佛建立に出向かれたり（手向山八幡宮の創建）、弓削の道鏡事件など国の重大事に託宣が発せされ、奈良時代国家の存亡の危機が救われております。

平安時代になりますと「吾れ都近き男山の峰に移座して国家を鎮護せむ」と石清水八幡宮（当宮の本宮）が御鎮座になり、益々ご神威が輝き朝廷より伊勢の神宮に次ぐ第二の宗廟として崇敬される様になりました。やがて武門の頭領河内源氏の氏神としても崇敬され、嫡流の源頼朝は鎌倉幕府の開府に当たり守護神として石清水八幡宮より勧請して鶴岡八幡宮を創祀するに及び、全国に武門の神として祀られる様になり、現在全国に四万余の八幡神社が鎮座されております。そうして今でも八幡大神さま（応神天皇様）のご神徳は益々広大無辺であります。

今年の新春も初詣にお参り頂き、東京のへそ・子育厄除八幡さまのご神縁をより深められますようお祈り致します。

新春に当たり、今年は只管八幡大神様のご神威を乞ひ願ひ奉りたいと思っております。この願いが通じ、氏子・崇敬者のご家庭にも遍く更なるご神威が輝き、各々のご家庭がご平安に幸せ多き年となりますようお祈り申し上げ年頭所感と致します。



平成二十二年庚寅年。御祭神応神天皇壹千七百年式年祭のこの年の年明けは元旦午前零時の初太鼓より始まります。一年の多幸を祈る参拝の方々で社頭が

埋め尽くされるなか、社殿では新春を言寿ぐ神能「翁」が観世流能楽師野村四郎氏により奉奏され、厄除開運大祈禱祭（一番祈禱）が宮司以下祭員奉仕により斎行されます。夜が明けた午前8時、歳旦祭が奉仕され、皇室国家と国民の平穏を祈念。翌日は午前10時より新春恒例の除魔神事「墓目の儀」と「大的式」が宗家小笠原清忠氏率いる小笠原流一門によって奉仕されます。そして三日には元始祭を斎行、皇位の元始を言寿ぎ大宮の杜の一年が始まります。

新春詣

応神天皇壹千七百年式年祭
あけましておめでとーございます

観世流能楽師野村四郎神能「翁」
小笠原流除魔神事墓目の儀・大的式

平成二十二年

春の祭典と主な行事

1月1日	神能「翁」 厄除開運大祈禱（一番祈禱） 歳旦祭
1月2日	小笠原流墓目の儀・大的式
1月3日	元始祭
1月7日	昭和天皇祭遙拝
1月15日	古神札焼納祭（どんと焼き）
1月25日	初天神祭（大宮天満宮）
1月26日	文化財防火デー・消防演習
2月1日	初午祭（大宮稻荷神社）
2月3日	節分祭
2月11日	紀元祭
2月下旬	梅盆栽展
3月上旬	木瓜盆栽展
3月春分	春季皇霊祭遙拝
4月上旬	桜まつり
4月1日	応神天皇壹千七百年式年祭
4月3日	神武天皇祭遙拝・本宮遙拝
4月29日	昭和祭
5月3日	稚児行列（3日） 植樹祭（4日） 尚武祭（5日）
5月5日	春の大祭
5月9日	裏千家献茶式
5月15日	大宮八幡宮の杜新能 御嶽棲名神社例祭（御嶽棲名社）
5月16日	御嶽棲名神社例祭（御嶽棲名社）
毎月1日	朔旦祭（どなたでも自由にご参列出来ます）
毎月15日	月次祭

毎月・お朔日参りを

致しましょう

謹賀新年

平成22年元旦

大宮八幡宮

代表役員 宮司 鎌田 紀彦

責任役員

高橋 徳住 夫治雄

梅田 千木 治雄

藤枝 清城 友男

黒澤 宏寿 彦郎

松島 浩一 彦郎

青木 龍章 一雄

鈴木 憲紀 章一

監査 青木 龍章 一雄

議長 黒澤 宏寿 彦郎

藤枝 清城 友男

梅田 千木 治雄

高橋 徳住 夫治雄

田村 清城 友男

五木 治雄

高橋 徳住 夫治雄

梅田 千木 治雄

藤枝 清城 友男

黒澤 宏寿 彦郎

松島 浩一 彦郎

青木 龍章 一雄

鈴木 憲紀 章一

監査 青木 龍章 一雄

議長 黒澤 宏寿 彦郎

藤枝 清城 友男

梅田 千木 治雄

高橋 徳住 夫治雄

田村 清城 友男

五木 治雄

和田東地区

梅田 清城 友男

佐藤 徳住 夫治雄

齊藤 千木 治雄

笠原 清城 友男

玉村 宏寿 彦郎

飯高 浩一 彦郎

浅谷 龍章 一雄

藤枝 清城 友男

森川 浩一 彦郎

葉梨 龍章 一雄

松ノ木地区

松島 浩一 彦郎

瀨沼 清城 友男

松ノ木地区

松島 浩一 彦郎

瀨沼 清城 友男

松ノ木地区

松島 浩一 彦郎

瀨沼 清城 友男

松ノ木地区

松島 浩一 彦郎

瀨沼 清城 友男

松ノ木地区

松島 浩一 彦郎

瀨沼 清城 友男

松ノ木地区

松島 浩一 彦郎

瀨沼 清城 友男

松ノ木地区

松島 浩一 彦郎

瀨沼 清城 友男

松ノ木地区

松島 浩一 彦郎

大宮八幡宮 早春の行事

小笠原流新春除魔神事 墓目の儀・大的式

正月2日午前10時、新春恒例の除魔神事、墓目の儀・大的式が小笠原流宗家により奉仕されます。墓目とは矢の先に付けた墓目、鐙のこと。木を挽いて削り、その形が墓蛙に似たところからこう呼ばれ、鋭い風切り音によつて魔障を退散させるといわれています。また大的式は千五百年前、清寧天皇が射を行わせ給うたとの記載が日本書紀に見られるよう、古くより公家、武家により行われた重儀。神前で弓矢の徳威を示し、天下泰平、国家安穩を祈念する弓始めの神事です。



小笠原流の資料によれば、当宮と小笠原流との関わりは深く古くは治承4年（一一二二年）、源頼朝が社殿を修営し、秋の大祭を9月15日執り行い、大的式流鐙馬が行われましたが、そのおり小笠原流始祖小笠原長清公も未だ18歳ながら頼朝の側近

として携わったと云われています。これらの神事に因み、当宮では除魔厄除守護の神矢が授与されております。



成人奉告祭のご案内

新年を迎え新たに成人したことをご神前にご奉告する成人奉告祭。当宮では成人奉告のご祈願を随時ご奉仕致し、ご祈願の新人の皆様に宮司様の手紙（干支絵馬）を、元旦より11日成人の日まで特別授与致しております。

古札焼納祭（どんど焼き神事）

毎年小正月の1月15日午前10時よりご神前で、月次祭に併せ奉告祭を斎行、次いで社殿前広場を斎場に、年末年始の参拝者の皆



厄除開運大祈禱（二番祈禱）

厄除開運大祈禱（二番祈禱）は、元旦の午前零時、新春を言祝ぐ神能「翁」の奉奏に続き、宮司奉仕により執り行われます。



この祈禱にご参列希望の方は、新春初祈禱の予約申込みを12月25日までにお済ませの上、12月31日午後11時20分から40分までに神門横の祈禱受付で受付票をご提示願ひ殿内へ参入頂きます。但し、先着50名様までとさせていただきます。尚、二番祈禱は元旦午前1時頃よりご奉仕致し、以後随時新春初祈禱を受付致しております。

新春初祈禱のご案内

お正月の期間中、当宮では、新春にあたり新しい年の貴家のご繁栄をお祈りする新春初祈禱をご奉仕させていただきます。ご希望の方は、社頭の申込書に必要事項をご記入の上、ご予約をお願い致します。一月の内に受付票を当宮祈禱受付所にご提示頂きますと、御神前にてご祈禱をご奉仕させていただきます。（それ以後は、ご祈願の上御神札をお送り致します。）

尚、祈禱予約の申込は12月25日までとさせていただきます。※御神札には、祈禱名と代表者名を浄書させていただきます。



どんど焼きにご協力をお願い

今年も温暖化防止、環境汚染対策を含め、伝統行事のお焚き上げ神事を今後とも存続させる為にも、ご神札等をお納め頂く際に全て点検・選別させて頂き、神社関係以外のもの・燃えないもの・有毒物質の発生のあるもの（プラスチック製品等）・包装紙は、その場でお待ち帰り頂いております。

何卒、予めご理解の上、お持ち込みにならぬ様ご協力の程をお願い致します。

◆御守り・古神矢・古神札類及び正月飾り（注連縄など）のみお預かり致します。

◆人形類は、別途に人形感謝祭をご奉仕してお納め頂いておりますので、直接祈禱受付所へお申し出下さい。（但し、ぬいぐるみはお預かり出来ません）

様が納められた古い御神札・御守等を積み上げ、古神矢・古神札等焼納祭(どんと焼き神事)が盛大に執り行われます。

又、恒例の当宮敬神婦人会(りんどう会)の皆様のご奉仕による、厄除げんざいが授与されます。

大宮稲荷神社 初午祭

本年の初午は2月1日。この初午の日に、稲荷大神が京都・伏見の峰に下られた故事から、この日には全国

初午のぼり奉納募集

はつま
毎年2月の最初の午の日を初午と云い、お稲荷さまのご縁日として親しまれています。

お稲荷さまは、ご存知のように商売繁盛・家内安全など、八幡さまと並んで広く親しまれた信仰のある神様です。本年も大宮稲荷神社の初午祭を賑々しく執り行いたく存じますので、左記により商売繁盛・家内安全等を祈願の「朱色のぼり」を是非ともご社頭にご奉納賜りますようお願い、ご案内致しお願い申し上げます。

記

「朱色のぼり一口三、〇〇〇円(出来れば一口二口以上でお願い致します)のぼりには、御氏名(又は会社名)を入れさせていただきます。

奉納
大宮稲荷
初午

各稲荷神社で初午祭がご奉仕されています。

当宮の大宮稲荷神社でも、1日の午後1時より初午祭が斎行されます。

真新しい百数十本の朱色の初午幟の立ち並ぶ稲荷神社に、幟奉納者等崇敬者の参列のもと祭典が斎行され、五穀豊穰を始めとして、皆様の家内安全や商売繁盛が祈念されます。

又、兼務社の堀ノ内熊野神社・成宗白山神社・尾崎熊野神社、境外社の谷中稲荷神社の各稲荷社でも初午祭が執り行われます。

節分祭(豆撒き神事)

2月3日は節分。節分とは立春の前日、大寒の終りの日です。当宮では、この季節の分かれ目に皆様の開運と身体健勝を大神様にご祈念申し上げる節分祭が午前10時より斎行されます。

祭典では、



古儀に則り桃の弓・葦の矢で「天地・人」を射る追儺神事が行われ、続いて社殿前にて邪気を祓う豆撒き神事も執り行われます。

紀元祭並極原神宮遙拝

2月11日は建国記念の日(旧紀元祭)。当宮では、午前10時より紀元祭を斎行。皇紀二六七〇年を祝い、日本の建国に思いを致し、皇室国家の繁栄、国運の隆昌と世界の平和をご祈念申し上げます。



応神天皇七百年式年祭

当宮御祭神の第十五代応神天皇は御母神功皇后が新羅出征中、腹中の皇子が皇位を継ぐとの住吉三神の霊告を得たことから胎中天皇とも称されました。

応神帝は半島との交流を進め、国土経営に尽くされ、わが国の国威が高揚されましたが、帝が崩ぜられてより今年が七百年の年に当たることから、当宮では来たる4月1日午前10時、**応神天皇七百年式年祭**を斎行、御祭神の御神徳を景仰申し上げます。

厄除け祈禱のご案内

厄年に当たる方は、厄除開運の信仰の篤い当八幡宮に於いて、厄除けのお祓いをお受けになり、清々しい一年に致しましょう。

平成二十二年厄年表(数え年)

男	性	前 厄	本 厄	後 厄
		昭和62年生(24歳)	昭和61年生(25歳)	昭和60年生(26歳)
女	性	前 厄	本 厄	後 厄
		昭和45年生(41歳)	昭和44年生(42歳)	昭和43年生(43歳)
男	性	前 厄	本 厄	後 厄
		昭和26年生(60歳)	昭和25年生(61歳)	昭和24年生(62歳)
女	性	前 厄	本 厄	後 厄
		平成5年生(18歳)	平成4年生(19歳)	平成3年生(20歳)
男	性	前 厄	本 厄	後 厄
		昭和54年生(32歳)	昭和53年生(33歳)	昭和52年生(34歳)
女	性	前 厄	本 厄	後 厄
		昭和50年生(36歳)	昭和49年生(37歳)	昭和48年生(38歳)
男	性	前 厄	本 厄	後 厄
		昭和26年生(60歳)	昭和25年生(61歳)	昭和24年生(62歳)

※厄年やくどしは、古来人生の節目として特に気をつけなければならぬとされている年回りのことです。本厄の前年は前厄、後年は後厄に当たります。厄年に限らず、除災招福の厄除祈願を受けることが出来ます。

杜の話題

大宮八幡祭り斎行

天皇陛下御即位二十年を奉祝する
大宮八幡祭り（秋の大祭）が9月15日及び18、21日にかけて斎行され、期間中境内は多くの参拝者で賑わいました。

15日 神社本庁よりの献幣使として平岩東京都神社庁長のご参向のもと例祭を斎行、大前に幣帛が献ぜられ八幡大神に五穀豊饒を感謝し皇室国家の安泰が祈念されました。

18日午前、神輿神霊人が行われ、



当宮に奉安されている氏子各町の神輿は各神幸所に奉遷、翌19日、宮司の神幸所巡拝のあと各神輿の町内巡幸が行われました。

そして夕刻6時よりは宵宮祭を斎行、翌20日午前10時よりは氏子奉幣祭が執り行われ、宮司祝詞奏上に続き、今年の副奉幣使・藤枝副祭礼委員長が大宮、方南、和田、松ノ木の氏子4地区より誠心籠もる浄財を氏子幣として大前に奉献、奉幣使・瀬沼祭礼委員長が氏子祈願詞を奏上し八幡大神の加護を祈りました。

この日午後6時よりは第24回神輿合同宮入りが行われ、氏子4地区8基の神輿が神門内に練り込み、境内は興奮と熱気に包まれました。また20日の小笠原流弓の神事「草鹿式」の他、杉並太鼓、方南エイサー踊りや高井戸囃子などの神賑行事が行われ、参道には百二十店の露店も出て終日参拝者で溢れていました。



第10回「菊被綿」展示

天皇陛下御即位二十年を奉祝する重陽の節句の宮中行事「菊被綿」が大宮八幡祭りに併せ9月9日より23日まで清涼殿ロビーに展示されました。



菊被綿は平安時代より

宮中を中心に広く行われていた不老不死を願う重陽の行事。当宮では天皇陛下御即位十年を奉祝して平成11年より再現されています。第10回を迎えた今回はまづ8日

夕刻、菊被綿神事を奉仕。拝殿の向拝下に設けられた鉢植えの菊に赤、黄、白の三色の真綿が被せられ、朝露を含んだ真綿が翌9日の日供祭にお供えされたあと、清涼殿で公開されました。

儀礼文化研究会開催

日本文化の中核である儀礼文化を研究する儀礼文化学会の第3回儀礼文化研究会が氏子奉幣祭の9月20日、当宮で開催されました。

研究会には会員の方々50余名が参加、正式参拝につき、小笠原流草鹿式の見学などを行いました。

新春献燈提灯奉納のご案内

新春の期間中多くの氏子・崇敬者の皆様方をお迎えするに当り、皆様方のお名前を入れた献燈提灯を掲出させて頂き、ご社頭を尚層賑々しくお飾りさせて頂き度く存じおります。

つきましては、左記によりご献燈を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

記

掲出期間 1月1日から2月3日まで
初穂料 一燈一〇、〇〇〇円
申込締切 12月19日（郵送は18日必着）

※詳しくは社務所にお問い合わせ下さい。



※複数燈でも承ります



御即位二十年奉祝奉告祭 奉祝国民祭典も開催さる

11月12日は天皇陛下の即位礼があげられた記念の日。この日国民祭典等全国で天皇陛下御即位二十年奉祝の行事が行われました。当宮では責任役員総代諸員参列のもと午前10時より天皇陛下御即位二十年奉祝奉告祭を宮司以下祭員奉仕により斎行。続く直会では聖寿萬歳が声高らかに奉唱されました。

同日「天皇陛下御即位二十年記念式典」や「天皇陛下御即位二十年をお祝いする国民祭典」が催され、夜の帳がおりる頃、天皇皇后両陛下には二重橋鉄橋に出御。三万人の提灯の波にお手づから提灯を振ってお応えになられ、おことばを述べられました。

なお当宮では11月8日より23日まで境内に御即位二十年奉祝記帳所を開設。記帳頂いた278名のご芳名の記帳簿は神社本庁を通じ、宮内庁へ取り次がれました。



秋季皇霊祭・神嘗祭・明治祭の遙拝

9月23日秋分の日、宮中での秋季皇霊祭御親祭に合わせ、この日宮司以下祭員奉仕により秋季皇霊祭遙拝が神域内斎場にて執り行われました。また10月17日には伊勢神宮神嘗祭に合わせ神嘗祭遙拝が、11月3日には明治祭遙拝が斎行されました。



鶴見神社奉賛会にご参拝

横浜市鶴見区の鶴見神社(金子元重宮司)の奉賛会の皆様が去る10月3日、当宮に参拝されました。御一行25名は当日午前当宮に到着、正式参拝のち秋の当宮境内を散策されました。



第9回「十五夜の神遊び」

10月3日は十五夜。この日第9回「十五夜の神遊び」が斎行されました。神遊びとは神慰め、神祭りのこと。夕刻、まづ献灯神事が行われ、大前の竹燈籠千百基に火が入られました。ついで社殿に進みて祭典が斎行され、お月見の団子や、きぬかつぎの里芋も神前にお供えされました。



つづいて神楽殿に移り当宮雅楽部による雅楽・神楽舞の奉奏のあと杉並区文化協会の後援により「月の音舞台」を開催。二胡奏者・芳晴とピアノ・シモシユの綾なす澄んだ音色は、神々と自然と音との共鳴を感じさせるひとときとなりました。

月の音舞台終了後は清涼殿にて「月見の宴」も設けられ、特選料理『月見御膳』に参加者は舌鼓を打っておられました。



熱田神宮本殿遷座祭当日遙拝

なおこの「十五夜の神遊び」の様子は、東京新聞10月4日の「熱気球」にも紹介されました。



皇祖の草薙神剣を奉斎する熱田神宮では御創祀壹千九百年記念事業として進められてきた本殿御屋根葺替工事を終え去る10月

10日夕、本殿遷座祭が執り行われましたが、当宮でもこれに合わせ、同日夕刻、宮司以下祭員奉仕により熱田神宮本殿遷座祭当日遙拝を斎行致しました。

丁巳会例会を実施

都内の神職有志で組織する丁巳会の例会が11月13日夕刻、当宮で開催されました。同会は大正6(丁巳)年に資格取得の神職有志が神道の信仰や学問の向上を目指して結成、その趣旨を受け継ぎ、研修などの活動が行われていきます。

当日は昇殿参拝の後、清涼殿で例会。宮司より乞巧奠や菊被綿など当宮の行事について説明。同会の例会や研修旅行の報告等が行われました。

恵俊彰さんがご参拝

TBSテレビの午後の人気番組「2時チャオ」の司会などヌディアで活躍、多くのファンに親しまれている恵俊彰さんが去る11月22日午前、当宮に参拝されました。

今回のご来宮はご次男の七五三詣でのご参拝で、ご家お揃いで朝一番のご祈禱を受けられ、お子様のご成長を祈念されておられました。



秋の実りに感謝 新嘗祭斎行

勤労感謝の日の11月23日午前9時より130名を超える方々のご参列を頂き新嘗祭が斎行されました。

新嘗祭は、新穀を大神さまにお供えして秋の収穫を感謝する祭典です。宮中を始め、全国津々浦々の神社でも行われています。当宮幼稚園の園児



等が収穫した稲穂の初穂をはじめ、篤志家やボーイ・ガールスカウト、氏子・崇敬者、各企業よりの新穀や清酒、野菜・果物など数多くの供進品が庭積神饌として献納されました。



岡崎総代会にご参拝

愛知県神社庁岡崎支部（支部長・畔柳春雄龍城神社宮司）の神社総代会のご一行47名が去る11月27日午前、当宮に参拝されました。

今度の来宮は同会の研修旅行の一環として行われたもの。参拝に続き当宮由緒等の説明を聞かれ、清涼殿で休息を取られた後、次の目的地、武蔵野陵に向かわれました。

第31回 杉並大宮菊花展

杉並区内外在住の菊愛好家の方々によって、丹精込めて作られた数々の菊花が出品される秋の恒例、杉並大宮菊花展。今年は10月23日より11月23日の一ヶ月間、当宮神門内特設展示場で開催されました。

この菊花展は杉並大宮菊の会（会長・五本木徳治当宮責任役員）主催、

戌の日詣りは

子育八幡さまの当宮で

安産祈願のご祈禱を！



ご祈願方には安産腹帯(岩田帯)を授与しております
子授け祈願・初宮詣も随時お受けしております

戌いぬの日早見表

(平成22年1月～5月)

5月	4月	3月	2月	1月
12日(水)	6日(火)	1日(月)	5日(金)	12日(火)
24日(月)	18日(日)	13日(土)	17日(水)	24日(日)
	30日(金)	25日(木)		

は大安の日です



遠宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

式年遷宮奉賛者芳名簿(その4)

平成21年8月1日～平成21年12月31日

(※一万円以上のみ掲出、順不同)

社務所

金拾壹萬円也

(有)温泉エネルギー研究所
ご奉賛頂きました奉賛金は、奉賛会を通じて伊勢神宮へお取り次ぎさせて頂いております。

第六十二回神宮式年遷宮に

真心からのご奉賛を致しますよう

第31回 杉並大宮菊花展表彰者

宮司賞
 杉並区長賞
 杉並大宮菊の会会長賞
 太宮八幡宮責任役員賞
 京王電鉄賞
 サミット賞
 サミット賞
 みどりの会会長賞
 審査委員長賞
 日本香菊会賞
 藤枝賞
 末柄賞
 八幡前通商栄益賞
 新人賞
 新人賞
 金賞
 倉本 栄子氏(精興右近
 五本 秀子氏(瀬戸の鷹
 佐久間 亨氏(天女の名所
 長谷川 宏氏(村山の春
 五本 徳治氏(国華越山
 井上 良助氏(天女の名所
 本橋 利夫氏(神代の杉
 中村 幸之輔氏(国華晴舞台
 稲村 実氏(国華越山)
 渡辺 忠雄氏(多摩の景勝
 瀧澤 政次氏(国華天授
 河江 忠氏(国華越山)
 倉本 晴雄氏(国華平山)
 関 富雄氏(国華金山)
 後藤 明弘氏(国華聖者)
 受賞者8名

第19回 杉並花笠祭り

第19回「杉並花笠祭り」が去る
 12月12日当宮で開催されました。
 杉並花笠祭りは当宮とサミット(株)
 の主催、山形県の後援で毎年催さ
 れているもの。

当日は開催奉告祭を斎行後、境

内メインス
 テージで御
 神酒の鏡開
 き。次いで郷
 土料理の芋
 煮や地酒が
 振る舞われ、
 山形特産の
 農作物の露
 店が立ち並
 ぶ中、午前午



後の二回、東京山形県人会花笠踊り愛好会、地元商店会婦人部、サミット社員等の皆さんによる花笠踊りが境内に練り込み、大宮の初冬の風物詩に三万人を超える参拝者で賑わいました。

新春初詣旅行のご案内

伊勢参宮と奈良・大和路の旅

日時：1月27日(水)～29日(金)

新春吉例の伊勢神宮初詣旅行。

第一日は新幹線にて伊勢に向かい、先ず伊勢神宮「外宮」にて御垣内特別参拝後、「内宮」をお参りして、太々神楽を奉納し御垣内特別参拝を致し、新しい年の更なる繁栄と各位のご多幸を祈念致します。

第二日は一路奈良へ向かい、今話題の纏向遺跡に程近い、大和国の古社「大和神社」と「大神神社」に正式参拝。

最終日は「春日大社」の正式参拝や「薬師寺」と「唐招提寺」を参詣し、大極殿等が復元されている「平城宮跡」で一千三百年前のその上を偲び、京都駅より新幹線にて帰路につきます。

詳細は社務所へお問い合わせを。お誘い合わせ頂き、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

★詳細は、当宮社務所(03-3311-0105)までお尋ね下さい。(平成22年1月5日メ切り)

大宮幼稚園60周年

記念事業について

大宮幼稚園は、昭和25年3月に杉並区より設立認可を受け、4月に大宮八幡宮境内に開園致しましてより本年度60年を迎えることとなりました。お蔭様で大宮八幡宮では、氏子崇敬者の皆様のご理解あるご支援によりまして、特に近年「心の教育」が重要視されて参りました今日まで、一貫して幼児期における神社神道ならではの宗教的情操教育の重要性に思いをおき、神社の保育施設としての特性を充分に発揮し得るよう大宮幼稚園の維持運営に携わって参りました。当初25名の園児で出発した当園は、戦後のベビーブーム世代の就園時には一時期500名を越す規模となりましたが、近年は約290名以上の在園児で安定しており、卒園児は、約八、一〇名を数え親子二代三代と当園に就園した方々もみられる様になりました。

大都會のなかで、子供達をめぐめる環境は極度に制限されており、安心して遊べる広い遊び場が求められております。当園は、緑に恵まれた大宮八幡宮の広い境内の一角にあり、平成12年の創立50周年記念事業で園庭の改修並びに周辺整備事業を中心に実施致しましたが、今般、園舎玄関門扉廻り及び玄関ホール改修と園庭側園舎外壁に環境壁面の作成等、幼児教育の為の施設を一層充実させ

幼稚園エントランス完成イメージ図



ていく事となりました。ここに、改修事業を中心として60周年記念誌の刊行や記念講演会・記念式典など、「大宮幼稚園創立60周年記念事業」を推進して参りたく存じております。

大宮幼稚園及び大宮八幡宮にゆかりのある方々にも、この事業に是非ともご参画いただき、立派に完遂致したく何卒応分のご協賛の程をお願い申し上げます。

平成21年11月吉日

創立六十周年記念事業実行委員会

尚、記念式典は6月12日(土)に

予定されております。

初宮詣芳名

(平成21年7月21日〜平成21年11月23日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

高島初 卯月真帆 松田聖叶 福地杏花
中村美勇 河合美南 本橋直旺 植杉志帆
倉持卓己 永村琢真 小田陽輝 池田圭次郎
江星勇介 遠藤詩野 坂本涼太 石井みどり
小池龍我 成田晴飛 河内仁 高橋優花
佐々木和子 中梨史奈 大原直明 藤本理央
松村萌永 丸茂優太 大澤歩乃 村田雄亮
伊東美音 小林朋央 古橋広一 渡邊佑希
齋藤愛 三笠愛莉 中村賢人 大石純
辻明寿花 一杉駿斗 古橋樹季 網島琉登
藤川真優 勝俣陽斗 林慧隆 竹内陽花
上野佑人 ダムラ玲央 白澤優華 浅川尚輝
代田和聖 藤川梨聖 塩崎蒼太 友木ひめか
藤山晃三 黄凱亜 毛塚遥華 西尾太我
森川智史 山野真弥 小川夏希 中野幹太
森袖希 網師野友聖 佐藤美結 齋木百夏
兵藤蒼日 村山颯希 勝山里咲 岩波英太
法安七生 栗本陽生 渡辺絢咲 中田蓮人
水澤紬 三瀬夢人 二瓶僚介 橋功将
大池温子 池亀聡真 多賀勝望 橋功将
池田遙真 吉田百花 山本紗輝 田中啓世
大森瑛太 力瀬夏帆 佐藤湊亮 坂野七美
岡田あゆめ 山本幸弥 左近充結真 山内優奈
大貫みづ 大友希海 杉山ゆりあ 新田悠智
坂本彩葉 清水紅里 三島拓人 小田星之介
高道心海 菅野紫苑 國分結翔 大島拓己
杉山美羽 間生莉奈 滝川史琉 安藤響子
高橋一世 田中美和 新免音寧 中村こは
小澤柚子 坂井結希乃 佐久間啓輔 橋本空河
鈴木快紬 三井仁湖 村上慶太 廣瀬涼真
山縣かみん 村山梨紗 関野登之丞 島中穂佳
鈴木こなた 三王愛夏 中里奏善 吉田陽音
渡邊美佳 稲川水紀 山岸佑多 柳澤芽依
門多夢叶 石原風紗 平木杏 富田涼乃介
渡辺あみる 小橋壮甫 高橋海晴 村田晃基
高倉理央 宮田彩那 市川颯 西村康太郎

三枝夏綺 大野樹 山口香乃 児玉修太郎
樋口大波 石川杏 小野田あこ 関将典
黒川透和子 及川龍之介 岩間千暖 小林海斗
堀部志穂 飯村朱音 ハーリー愛 寺内颯史
宮原佐采 奥村紘登 岡村優花 高木優
竹地秀憲 平野英明 藤田百乃 須藤芽衣
平田純愛 渡邊聡之 山口利歩 古川佑哉
原田壮一朗 和田夏 財部真悠子 安藤雅晃
松尾美那 大田凛久 莊司輝連 長歩美 中園利子
安藤道治 荳町輝連 長歩美 中園利子
高瀬陽梨 小泉優香 高田珠音 荻谷優仁
若林碧唯 竹中若菜 原田夏海 白石喜子
櫻井裕斗 澤口翔太 角田一起 濱松彦淳
中嶋悠衣 都丸夏希 藤井千穂 下村優里香
菅江祥太 北山日向 竹内優真 池田悠晃
山崎遙斗 小西柚希 岸田陽向 森田彩吹
朴本翔一朗 岸本佑里香 工藤勇人 山崎琳太
大和多梨花 山本乃々子 定岡司真 石崎舞
吉川圭亮 辻蒼真 平見啓太 岡陽翔
松村奏和 辻結香 北川水葵 馬場優果
斉藤奈 鬼東咲希 増井宏哉 柳川こころ
古畑心愛 落合緋美 水野谷泰 小林駿佑
助安佑南 北原慎一 石橋恒亮 干場彩子
鈴木通翔 阿部皓太郎 齋藤優芽 奥山紗季
藤沢剛志 森田悠斗 平山和樹 森田莉理
吉田琢 細沼旬輔 松井梨音 鈴木菜夏子
柴田将吾 津島尊之介 櫻井孝太 長澤月雲
山田彩乃 野田通菜 櫻井景太 渡邊孟
板橋航 櫻井大佑 中野美露 近藤知
桑名彩光 川俣璃子 吉田喜園 山本璃玖
今村心翼 菊地陽二 大橋一矢 丸茂末莉
岡本花奈 鶴岡真光 大橋柑太 野崎光寛
柴沼博雅 漆畑雄星 松本満優 奥村心瑛
伊藤璃子 加藤優和 勝田結衣 土屋真綾
大江陽菜 小笠原将芳 吉田萌々花 市川綴紀
伊澤慶彦 大寺亨沙通 宮川ひかる 小笠原唯人
山室宏翔 池田顕太 初川なつみ 小杉颯大
水尾暖琉 大内理愛 中本侑希 中村翼
松平千明 中津大成 相馬杏菜 櫻井陽明
権瓶泰毅 薄田子夏 駒嶋かおり 中藤孝明
竹田明生 齊藤飛雄馬 北村星七 宮地賢信
貞包丈 平石瑠 齊藤ことり 前田なつき

どんぐり通信

おおかやうちえん



かされました。

子供は小さな発見も大きな発見も、
どんなことでもすぐに吸収して大きく
なっていくことを改めて実感したと同時
に子供たちの持っている素晴らしい所を
もっと伸ばしていけるように今後も
サポートをしていきたいと感じました。
今回の作品展の作品づくりを通して
私自身子供達から学ぶことがたくさん
ありました。そして、お母様方は毎日
絵の具やボンドで汚れてしまった体操
着等のお洗濯有り難うございました。

教諭 倉田美穂

芸術の秋。11月中は作品展に向け、
様々な素材、技法で日々作品づくり
を行っていた子供達。お面づくりで
は、二人一組の個性が作品に現れてい
て素敵なお面がたくさん出来上がりま
した。静物画では、それぞれの実物を
見ながら、スケッチから色塗りをしま
した。初めての絵の具の混ぜ合わせで
は、自分で作りたい気持ちでわくわく
し、その反面水加減が難しくて濃かつ
たり薄かったり、それでも自分で本物
と同じ色になるように筆を馴染ませ、
丁度良い絵の具の色を作りました。
又、今年は静物画の中に「イカ」が
あったのですが、二人のお母様からこ
んなお話がありました。一人は男の子
のお母さんで、「家に帰るとすぐ紙と
えんぴつが欲しいと話していたので渡
すと、「イカ」を描き始めて驚きまし
た!」二人目は女の子のお母様で、「イ
カが苦手なので選んでいてびっくりし
ました。今までは食べることが出来ま
せんでしたが、静物画をきつかけに、口
に入れることが
できました!」
この二つのエピソードを聞き、
一つ一つの制作でこ
んなにも子供の
気持ちに変化
があることに驚
かされました。

大宮幼稚園
創立60周年の
行事として、
去る10月10日
に第60回運動
会が好天もと
盛大に催され
ました。
又、12月4
日には、「園遊
会」が父母の
会による「お楽
しみ会」に併
せて親子揃って
の記念植樹式
(橋二本)や
バルーン上げ等
賑々しく行われ
ました。



浅野はな 山下夏輝 工藤理史奈 山本和奏
 多勢真風 山崎暖真 佐藤紀南 岩波瑞空
 仲嶺旗一 篠原蒼汰 西尾勇瑠 杉村叶愛
 出井花音 八十島翠葉 嶋田暁 河田勇誠
 岡本庵慈 桑村颯太 大城結愛 齊藤優月
 北川由良 福田梵乃 井上大誠 田ヶ谷洗太
 鹿島颯 小池結稀 石井妃暖 佐原潤
 塚田晏菜 清水玲紗 大橋海椰 八木翼
 石井麻海 長瀬悠希子 岩田瑠生 下田朋令
 大野宏成 吉川咲耶 松永結希 石川和義
 五十嵐風花 木村圭吾 海渡奈々 松下步夢
 後藤晴琉 元女智貴 市隆之介 花野叶
 古川晃伎 古川莉瑚 金子希乃花 小池花
 鈴木真央 松永雄太 山内美空 梶田紗希
 鈴木空晟 二階堂獅恩 西土聡 宮崎祈
 鈴木奏守 山岡慶 本橋忠寛 若餅夏芽
 永井音羽 安島果南 塩入耕太郎 小川恵
 渡辺愛梨 石井瑛麻 村井美紀子 多々々綾
 藤田奈緒 溝次莉奈 西山吳佑 井坂将人
 尾崎千紬 神山隆 小林楓 松本巨平
 富田真玄 相馬陸人 中村拓音 藤原颯斗
 大坪穂乃花 小野晴貴 饗庭知香 高橋あいり
 越田夏花 武倉彰 菊池紗帆 中村陽太
 土屋真帆 齋藤健琉 菊池利帆 有森脩斗
 後藤葉奈 橋本千夏 大津朋希 高野美慶
 鈴木通翔 平岡伸一朗 畑廣美和 廣瀬想真
 後久夏希 巽ほとり 高野風香 寛太輝
 中澤穂佳 小堀乃愛 鈴木琥真 石田遥大
 伊藤悠一 古谷颯汰 諸星周 雨宮秀磨
 千葉真大 齊藤優 黒川莉子 松田弦人
 石丸一 藤原登喜夫 星名結衣 伊東拓人
 玉水蓮 平澤由空 松井颯吾 大井由紀恵
 兼松夏希 梶原王士郎 磯部稟 杉本智和
 高橋まゆか 鳥澤穂積 町田梨紗 瀬戸翔太郎
 鈴木菜生 荒井桜 島海果乃菜 六車紅音
 金子陽輔 金泰悟 田中優衣 金井瑛汰
 木弓子理 長谷川直樹 唐登夏海 藤井遼
 伊井海星 村上裕夫 小松愛佳 竹田和樹
 平井理一 田中琉衣 上原愛禾 中澤アナ
 宇野なゆた 畑岡美祐 島田紗良 奈良琥珀
 大澤あおば 白石瑚夏 竹内里奈 天野匠
 野宮愛唯 加瀬通貴 和田彩花 大島ニコ

川村佳徳 雨宮宗佑 磯野穂子 原惟聖
 近田郁実 澤木美伶 安部僚祐 小林聖宗
 佐藤唄 上野給粉香 武藤結愛 佐山晴信
 野見山權 川尻彩七 小野夏倫 下妻透也
 伊達結奈 平野健由 藤田菜愛 北川実穂
 深見瑛美 池田一花 竹葉馨 北條賢慎
 古塩陽己 池田二葉 野原凛 鈴木花音
 近藤佑樹 内藤秀夫 西脇悠真 江口葵
 森田倫央 内藤拓斗 椎葉卓矢 江口葵
 小岸澪正 石川息吹 加藤陽斗 石井利麻
 角田美乃 飯島彩心 宮崎柊 奥村鈴
 川津杏菜 江川のどか 坪井新 折原瑛介
 岩崎華 八木佑介 石井俊次 中尾泰己
 中込翔真 佐々木聖都 生川恵太郎 岡部勇斗
 田中章介 鈴木希 君塚愛稀 北川瑞梨果
 成島修 岩波希 福重颯大 君和田楓
 仲聡真 松永のい 鈴木和奏 土屋紗映
 上原叶汰 福岡諒真 村本将輝 片岡永多
 根来百華 池内アツナ 小川舞華 片岡心花
 雨宮衛生 井瀬連志朗 中澤優莉奈 佐藤音音
 榎本光 関口いつき 福村香歩 片岡心花
 山本陽太 早山蒼乃 早瀬心陽 清水健太
 皆川槍矢 荒巻万結 遠藤佳音 内山健太
 野口紗紗 井元貴哉 田村直翔 石井聡太
 栄徳真武 小林蒼太 太田千晴 一野田真奈
 小野寺希美 板合厚志 大久保颯亮 林珠莉
 松永陽介 野上公鶴 佐々木心音 小村彩乃
 三浦瑠菜 稲田大誠 野寄帆乃花 飯島杏沙
 永瀬凌次 村松美空 清水恒希 山野百々香
 清野優晴 傳井悠一郎 大日方亜妃 堀内トク恵
 畑中真尋 北林謙人 吉村眞生 田口小晴
 福上昊 今川美空 西川嘉乃 有村航太郎
 福島蒼介 青木恵 仁科綾人 横井咲希
 胎中裕太 藤田翔太 熊野裕健 横井咲希
 佐野史武 奈良谷隼人 橋本康平 横井咲希
 田中颯乙 石原心美 白神一馬 野々村麻耶
 齋藤夢嘉 于瑞生 小西麻樹生 浅井優音
 田嶋煌 海老澤悠羽 浅井優音 浅井優音
 大沼大躍 生田絆菜 笠原一真 笠原一真
 近藤信之 渡邊淳 奥野駿 奥野駿
 伊藤颯佑 木村勝一 前田桜佑 前田桜佑

清涼殿集宴会場 リニューアル



効果的で使い易い施設としてリニューアル致しました。皆様のご利用を心よりお待ちしております。

竣工清祓式が行われました。
 清涼殿は昭和41年の開業以来、多くの皆様に愛顧を頂いており、近年二階の「羽衣の間」「蓬萊の間」が老朽化してきたことから今回の改修となりました。
 主な改修内容は①自然光の採光と館内照明の調光バランス及び防音効果の高度化②大画面プロジェクトの設置など最新の映像・照明・音響設備の導入など環境面重視のコンセプトで効率的で使い易い施設としてリニューアル致しました。皆様のご利用を心よりお待ちしております。



関係者一同修祓（竣工清祓式にて）

緑豊かな都心の杜。 感動の瞬間

成人式
卒業式

衣装・美容着付・写真・初宮饗膳（ご会食）など承ります。

清涼殿

03(3312)7515

結婚式挙式者芳名（敬称略）

平成21年8月1日～平成21年11月31日

青山宗一郎・尚子 小菅翔・絵里子
 大橋正典・かすみ 柳原一雄・美和
 菊地貴弘・明子 山下浩人・雅美
 黒沼宗孝・絢子 清野亮一・実樹
 櫛戸渉・恭子 岡崎大祐・克枝
 齋藤孝太・貴子



平成22庚寅年 迎春



新年にはご祈祷（ご祈願）をお受けになり、清々しい一年に致しましょう



元旦零時、宮司による初太鼓



正月期間中、参拝者で賑わう社頭



賑わう表参道



元日早朝、歳旦祭を斎行



新年を言寿ぎ祝詞奏上



ご神前へ「浦安舞」奉奏



立正佼成会庭野会長らご参拝



2日、小笠原流新春除魔神事 大的式



新春祈祷の直会所風景



1月15日、忌火による古神札焼納



15日、りんどう会奉仕の厄除ぜんざい授与



満開の冬桜

大 宮 第86号
平成22年 新春号
 平成22年1月1日発行
大宮八幡宮社務所

〒168-8570

東京都杉並区大宮2-3-1

電話 (3311)0105 FAX(3318)6100

Mail: info@ohmiya-hachimangu.or.jp



1月25日、大宮天満宮で初天神齋行



新春より授与、寅の干支土鈴

えんむすび守



1月26日、文化財防火デー消防演習